

事業群評価調書(平成29年度実施)

基本戦略名	8 元気で豊かな農林水産業を育てる	事業群主管所属	農林部畜産課
施策名	(3) 農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化	課(室)長名	大曲 祥之
事業群名	品目別戦略の再構築(養鶏)	事業群関係課(室)	

1.計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文) 米や果樹、施設・露地野菜、畜産物、木材などの品目毎に、品質向上や多収化、新技術・新品種導入、規模拡大や増頭などの生産性向上対策による定時・定量・定質の出荷体制を確保していく取組をはじめ、ブランド化やコスト縮減対策などしっかり稼ぐための対策を推進します。						(取組項目))特色ある鶏卵・鶏肉の生産と雇用就農を促進する養鶏経営の育成)家畜伝染病の発生防止および防疫態勢の維持・強化	
指 標		最終目標 (H32)	基準値 (H25)	実績 (H27)	達成率	(進捗状況の分析) 養鶏では、飼養管理技術が向上しており、生産性の向上やコスト低減の取り組み、及び各事業者によるブランド化の取組みにより、販売額は着実に増加している。(採卵鶏 H25実績 50億円 → H27実績 57億円)(肉用鶏 H25実績 40億円 → H27実績 51億円)	
事業群	産地計画策定産地の販売額	1,093億円	965億円	1,014億円	—		
関連指標							

2.28年度取組実績(H29新規・補正は参考記載)

取組項目	事務事業名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					28年度事業の成果等	中核事業	
			H28実績	一般財源	人件費(参考)	事業対象	28年度事業の実施状況 (29年度新規・補正は事業内容)	指標	主な目標	H28目標	H28実績	達成率			
	H29計画		一般財源	人件費(参考)	H29目標					—	—				
取組項目	畜産クラスター構築事業費	H27-30	488,762	72,629	8,042	養鶏生産者	地域特有の実態を踏まえた新たな取組を推進し、地域の中心的な畜産経営体を育成するため、高収益型畜産体制(クラスター)を構築した。 養鶏においては、H27は、規模拡大のための施設整備や、付加価値向上のための液卵加工施設の導入検討を行い、H28は畜産クラスター事業を活用したウインドレス鶏舎の整備を実施した。	活動指標	事業推進会議の開催回数(回)	1	1	100%	肉用鶏舎(3万羽規模)の整備により、飼養羽数の増大につながった。	○	
			1	—	—										
	畜産課	H27-30	2,055,197	266,267	12,111			成果指標	鶏舎関連施設整備棟数(棟)	1	1	100%			
			2	—	—										
	ながさき畜産収益力向上対策事業費	H28-30	13,957	13,957	8,065	養鶏生産者	地域特色のある銘柄作出に向けたシンポジウムの参加を通じて、全国の優良事例の収集や生産課題等の整理を行い、各関係機関との情報共有を図った。	活動指標	銘柄化勉強会の開催(回)	1	1	100%	これまでの事業者への継続的な情報提供の取組もあって、新規に1銘柄が作出された。		
			1	—	—										
	畜産課	H28-30	8,003	8,003	8,074			成果指標	地域資源を活用した、新たな鶏卵鶏肉銘柄数(種)	0	1	皆増			
			0	—	—										
	養鶏振興対策費	—	—	7,851	7,851	2,417	養鶏生産者	養鶏振興法に基づく諸対策及び鶏卵需給指導を行うとともに、鶏卵価格差補てん事業の推進を行い、養鶏農家の経営安定を図った。	活動指標	制度の周知徹底(回)	3	3	100%	制度の周知を行うことで、事業参加への認識は高まったが、廃業による中途解約者の発生により加入者が減少し、目標羽数よりも減少したが、概ね目標どおりに遂行できた。	
				3	—	—									
畜産課		—	—	8,016	8,016	2,420			成果指標	基金加入羽数(千羽)	1,318	1,248	94%		
				1,142	—	—									

取組項目	家畜伝染病予防対策費	—	100,363	55,062	138,322	家畜保健衛生所	県内における高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の発生時に、迅速な初動防疫対策により病原体の封じ込めが可能となるよう体制を整備した。	活動指標	養鶏農家全戸立入調査率(%)	100	100	100%	家畜伝染病予防法に基づく家畜飼養農家全戸への立入検査等により、高病原性鳥インフルエンザの発生が防止できた。												
			畜産課	92,932	48,534			138,872	成果指標	高病原性鳥インフルエンザの発生戸数(件)	100	—		—											
											0	0		100%	0	—	—								
	畜産技術研修費	—	812	559	804	県職員(獣医師、普及員)	技術の高度化と国際化に対応するため、国(農林水産省)等が開催する畜産技術員研修や家畜衛生講習会等に参加し、指導力の強化を図った。	活動指標	研修参加人数(人)	8	8	100%	地域の実情に応じた研修会を受講し、畜産関係職員の知識及び技術の習熟が図られたことから、畜産農家に対する指導力が強化され、目標を達成した。												
			畜産課	674	514			807	成果指標	研修結果の報告率(%)	6	—		—	100	100	100%	100	—	—					
											100	—		—											
	家畜保健衛生所費	—	37,212	36,005	32,168	家畜保健衛生所	家畜衛生技術の高度化により、畜産農家及び診療獣医師の家畜保健衛生所に対する高度かつ迅速な対応への要望が強まっていることから、計画的な施設、備品等整備を図り、その機能を向上させた。	活動指標	病性鑑定研修会実施回数(回)	4	4	100%	ヘマトクリット遠心機等の整備により、検査精度が向上し、検査にかかる時間も短縮されたことから、迅速な診断が可能となり、家畜伝染性疾病的の発生予防、まん延防止が図られた。												
			畜産課	42,105	36,579			32,296	成果指標	検査機器等整備率(%)	4	—		—	100	100	100%	100	—	—					
											100	—		—											
	長崎県獣医師確保対策事業費	—	8,154	8,154	2,413	獣医大学生	産業動物診療獣医師や公務員獣医師を確保するため、獣医学専攻学生に対し修学資金を貸与した。また、就職誘引を図るため、インターンシップ研修を実施した。	活動指標	周知大学数(大学)	16	16	100%	新規貸与希望者3名から申込みがあったが、都合により1名辞退され、貸与者は2名であった。しかしながら、平成29年4月に本事業の貸与者が県内に1名就職したことから、県内産業動物獣医師数を確保している。												
			畜産課	15,189	14,954			4,037	成果指標	新規貸与者数(人)	16	—		—	3	2	66%	3	—	—					

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

)特色ある鶏卵・鶏肉の生産と雇用就農を促進する養鶏経営の育成

銘柄化による収益性の高い養鶏経営の実現のため、これまでの取組のほか試験研究の成果情報も加えながら、銘柄数の向上を推進していく。

) 家畜伝染病の発生防止および防疫態勢の維持・強化

韓国や台湾等の周辺国では依然として、鳥インフルエンザが発生しており、万一、本県で発生した場合には畜産業のみならず地域経済にも大きな影響を及ぼすことが予想されることから、発生した際の被害を最小限に抑えるために、防疫演習等を通じて関係者が一体となった防疫態勢を強化しておく必要がある。

4. 29年度見直し内容及び30年度実施に向けた方向性

取組項目	事務事業名	29年度事業の実施にあたり見直した内容 (H29の新たな取組は「H29新規」等と記載、見直しがない場合は「-」と記載)	30年度事業の実施に向けた方向性		
			事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目	畜産クラスター構築事業費	—	—	畜産クラスター協議会の中で、地域の取組や優良事例などの意見交換を行いながら、増羽や地域波及への効果の高い事業計画(液卵加工施設、鶏舎等)の策定を指導し、本事業(国)の予算確保に努めていく。	現状維持
	ながさき畜産収益力向上対策事業費	—	—	引き続き銘柄数向上のため、各関係機関との情報共有を行っていく。	現状維持
	養鶏振興対策費	—	—	本事業は鶏卵取引価格が下落した際に事業加入者へ補填金を発動する仕組みであるが、近年の高水準な卵価の推移では、加入するメリットが薄れ加入者の減少が見受けられる。しかし、エッグサイクルが存在するように、卵価は不安定な一面をもつため、引き続き鶏卵生産者への加入促進を行う。 エッグサイクル: 卵価の高い時にヒナの餌付けが増え、成鶏羽数が増えると価格が低迷し、再び飼養羽数が抑制され、また卵価が回復する繰り返しのこと。	現状維持
取組項目	家畜伝染病予防対策費	家畜伝染病が発生した場合に備えて、防疫演習等を実施し、初動防疫態勢の確認を実施した。また、家畜の伝染性疾病による生産性の低下を防止する対策として、畜種ごとの健康診断を実施した生産者への指導プログラムを検討した。	—	本事業は家畜伝染病の発生防止・まん延防止に不可欠な事業であり、県も国の衛生対策方針に準じて、継続的に実施していく必要がある。	現状維持
	畜産技術研修費	—	—	家畜防疫員のスキルアップやリーダー養成に向け、最新の知識や技術を習得する必要があるため、国等が実施する各種研修会等に積極的に参加し、技術の研鑽を積むとともに伝達講習会の実施等により、県職員全体の技術向上に引き続き努めていく。	現状維持
	家畜保健衛生所費	—	—	家畜伝染病等の発生防止のためには、家畜保健衛生所における高度な診断技術が必要であり、今後も施設、機器の整備は必須であり、国庫事業(消費安全対策交付金)の活用により整備を図る。	現状維持
	長崎県獣医師確保対策事業費	既存の修学資金について、貸与条件を一部緩和し、新たに国庫事業を活用した事業を設立した。また、新たに高校生を対象とした獣医修学資金事業を設立した。獣医系大学で開催される就職説明会への積極的な参加や県職員獣医師の業務紹介リーフレットの作成等、獣医師確保対策を強化した。		より効果的な獣医師確保対策を講じるため、修学資金の貸与者数の検討や新たな広報媒体の活用による長崎県のPR等に取り組んでいく。	拡充